



生活支援コーディネーター 地域サミット in Okinawa 報告03 住民活動をつなぐ

「うきは市の移動販売について」



福岡県 うきは市 第1層地域支え合い推進員
社会福祉法人 うきは市社会福祉協議会
総務企画課 企画調整係 中川 史高

うきは市の現状



平成17年 3 月に旧浮羽町と旧吉井町が合併し誕生。

人 口：29,059人

高齢化率：34.5%（10,013人）

後期高齢率：18.1%（5,273人）

年 少 率：12.3%（3,563人）

※令和 2 年4月1日現在



うきは市のゆるキャラ
『うきぴー』

【うきは市内の地域の考え方】

地区：11（旧小学校区）

地区ごとに、まちづくり組織としてそれまでの
地区公民館（旧小学校区単位に設置）を継承・発展する形で、**地区自治協議会**が平成26年に誕生。

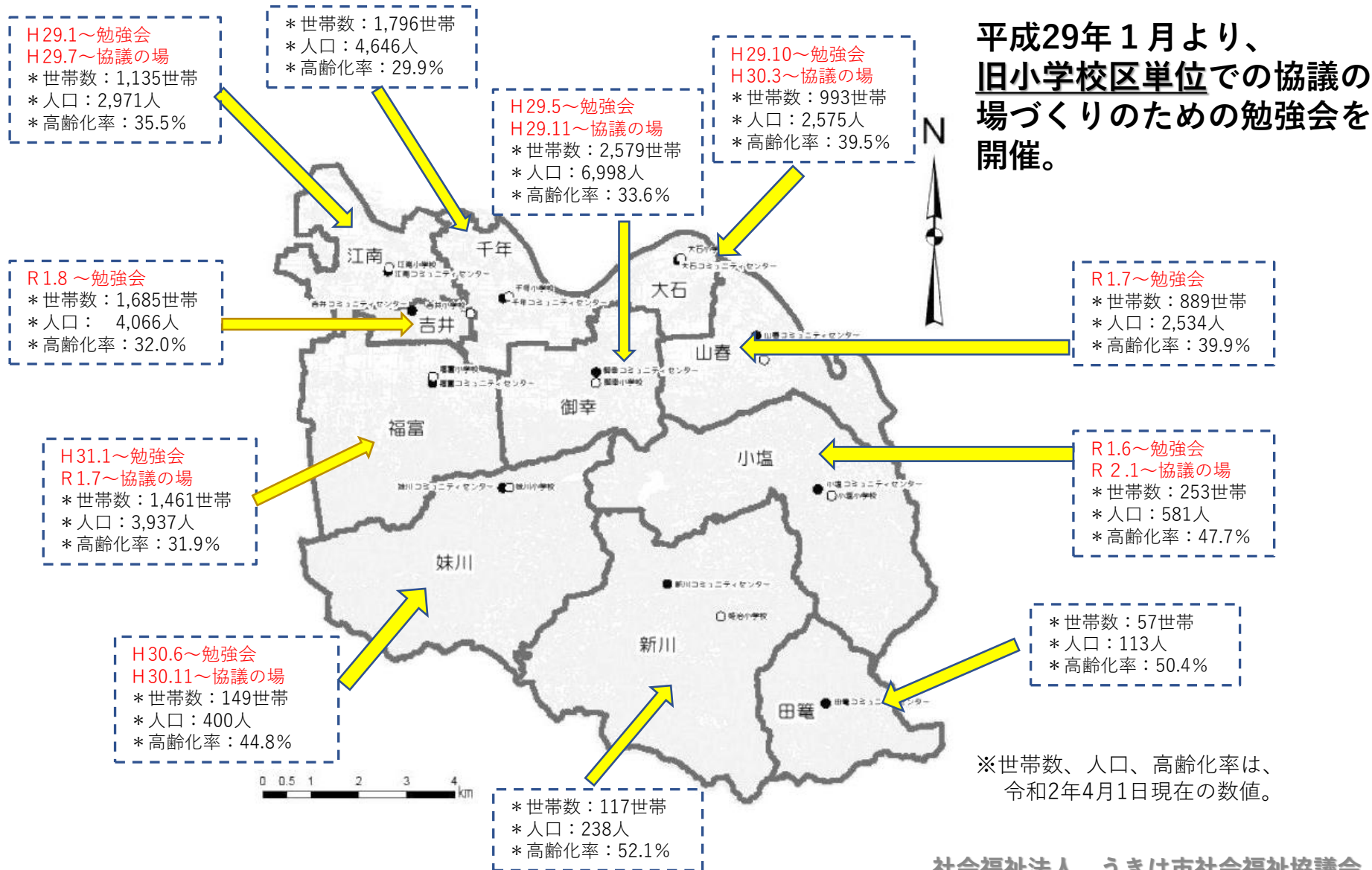
行政区：158

地区を構成する地域・自治組織
いわゆる「**集落や自治会**」と呼ばれるエリア

うきは市は福岡県の南東部に位置し、北は朝倉市、西は久留米市、南は八女市、東は大分県日田市と接しています。

面積は117.55km²で、約75%が、耕地、山林といった自然豊かな地域です。また、四季折々のフルーツが実るフルーツ王国でもあります。

うきは市の現状



協議の場が始まる前のお話 ～生活課題は突然に・・・（江南地区）～



平成27年に地区自治協議会が策定した地域計画でも公共交通機関が近くにないたため不安。スーパーなどが近くにないたため買い物に困るという声が出ていた。ある行政区の福祉小座談会で…

「もうすぐ地域にあるスーパーがなくなる。買い物できる場所がなくなり、買い物に不安を抱えているという声が地域の高齢者から出ている。」との声。そういった声が地区内の複数の行政区からあがる。

その前年の2月より、市内のスーパーが移動販売を実施するようになる！！

しかし、江南地区には移動販売車は対象エリアではない・・・。

協議の場が始まる前のお話 ～生活課題は突然に・・・（江南地区）～



サンピットバリュー 移動販売車
ウキウキ号



この課題について、地元の自治協議会と検討し、移動販売車の運行が出来ないかをスーパー側へ打診。

買い物できる場所がなくなった状況もあるため、移動販売車の運行について快く引き受けていただいた。

地区自治協議会、各行政区の区長、民生委員等ともルート等を検討。まずは集まりやすい行政区公民館に停車するように決まる。スーパーの社長はその**地域内にある個人商店等にも挨拶に行き、移動販売車を運行するにいたった経緯と地元商店の売り上げ減にならないよう配慮することを説明してくれた。**

協議の場が始まる前のお話 ～生活課題は突然に・・・（江南地区）～



福祉小座談会で「一人暮らし高齢者の方で買い物に困っている。」との声が挙がる。

地域の方とその方の家と一緒に訪問。週末に子どもが買い物してきてくれているが、自分でも買い物したい。

スーパーの移動販売車が公民館に停まっている。しかし、足が悪く、外までは行けない。自分の家まで来てくれれば・・・。

スーパーの社長に相談すると他のお宅でも同様のケースだったり、人が集まりやすいなどの理由から個人宅前に販売車を停めて対応していることもあり、本人の了承が得れば、対応可能であることの返事をもらう。

本人にそのことを伝えると利用したいとの声があり、翌週より移動販売車が自宅前に停車するようになり、買い物ができるようになる。



協議の場が始まる前のお話

～生活課題は突然に・・・（江南地区）～



約1年間移動販売車を運行してもらったが、地域内に別のスーパーやコンビニがオープン・宅配サービスを実施するようになったこともあり、一定の役割を果たしたことで、**1年後に移動販売は終了。**

個別の相談をつなぐということではできたものの、当時の地域の皆さんの声として「**1社のみに肩入れするのは・・・**」という声も多くあった。

当時は地域の皆さんの声として「移動手段が足りない」という声があるということ話を話す場もなく、移動販売が大事な社会資源という位置づけであるという根拠を自分自身が説明できなかったという苦い経験でもあった。



平成28年度（平成29年1月）より、各地域の協議の場の設置に向け、勉強会を開催。

勉強会で必ずと言っていいほど出てくる「あったらいいな」は**移動手段**。

山間部だけではなく、平地でもバス停まで距離がある地域も多いうきは市。移動手段は市全域の課題でもある。

移動手段を使っの目的地

①通院 ②買い物 ③金融機関 ④お寺など

協議の場を進めていく中で**移動手段を確保するため、移動支援や買い物支援**など地域の中での仕組みづくりや取り組みも進んでいます。（※次スライド）

協議の場・勉強会が始まってからのお話 ～市内の共通課題「移動手段」と地域の取り組み～



各地区の課題解決を
市全体で考えるため
に・・・。

スクールバスを活用した
買い物・通院支援



通所型サービスBへの送迎



軽自動車による移動支援
(買い物・通院)



地域で行う移動支援に関する 情報交換会の開催



地区外のボランティ
ア希望者と活動の
マッチングも出来ま
した！



★参加される方が元気になったり、明るくなる様子を身近
で見るとやりがいいにもつながる

★利用予定の方がいないときには、関係機関に連絡するな
ど見守りにもつながっている

★外出することで、お化粧したり、おしゃれをしたりと、
介護予防にもなっている

でも・・・

どこの地域も運転ボランティアの数
が足りないというのが課題。
地域だけでなく、企業などとの連携
がさらに重要になると痛感・・・。

令和2年度の転機

～人口3万弱の市に移動販売車が3社も～



これまで1社しかなかった移動販売。販売ルートも限られていた。

しかし、**昨年6月にはセブンイレブンさんが10月にはとくし丸さんが移動販売を始める**ということに……。定期的に集まる居場所活動については、市の担当者、地域のお世話人、企業の方などと調整し、活動終了時刻ごろに移動販売車が来るように調整を行った。



移動販売が3社になり、それぞれ販売エリアが違うため、お互いを補完し合うことができれば、市内全部の地域に移動販売車が停車するという状況をつくることが可能になった。

地域の共通課題としてある「移動手段」のうち、移動手段を使う目的地上位の「買い物」を支える社会資源が整ったものの、買い物を手伝ってほしいという声をつなげていくためには地域の協力が必要。そのことから、第1層協議の場では「移動販売」をテーマとした。

市内を走る移動販売車について



サンピットバリュー 移動販売車「ウキウキ号」平成26年2月～

- ・旧浮羽町域をエリアとしている（毎週月・火・木・金・土）
 - ・店内の商品を載せている（生鮮品・惣菜・お菓子・日用品等）
 - ・公民館・個人宅など停車場所は様々
 - ・一部停車箇所が居場所になっている
 - ・商品価格は店頭価格からプラス10円～100円ほど上乗せしている
- ※うきは市初の移動販売車！メディア取材多数。カンブリア宮殿にも出演。
移動販売をはじめ、様々な先駆的取り組みを行う地元スーパー



セブンイレブン 移動販売車「あんしんお届け便」令和2年6月～

- ・市内全域をエリアとしている（毎週月・水・木・金）
 - ・店内の商品を載せている（生鮮食品は注文時のみ販売）
 - ・現金の他、nanacoカードでの支払いができる
 - ・移動販売の他、個人宅への配達を行っている
- ※「他の移動販売車を補完する形で移動販売を行いたい。」
ウキウキ号のまわっているエリアのうち、「もう一回来てほしい」との依頼のあった地区を、調整の上まわっている。



移動スーパー「とくし丸」令和2年10月～

- ※協力店舗：A コープ吉井店
- ・旧吉井町域をエリアとしている（毎週月～金）
 - ・協力店舗の商品を載せている（生鮮品・惣菜・お菓子・日用品等）
 - ・個人宅の玄関先まで訪問しての販売が特徴
 - ・商品価格+10円（1品につき）
- ※運転手の方は永年ヘルパーとして介護現場に従事。
「平地でも困っている方がたくさんいるので、一人でも多く届けたい。」

うきは市の移動販売の状況



サンピットバリュー

主な範囲：旧浮羽町域

※江南地区については、
新治団地区のみ

※千年地区については、
長野・福久・御敷町区のみ



セブンイレブン

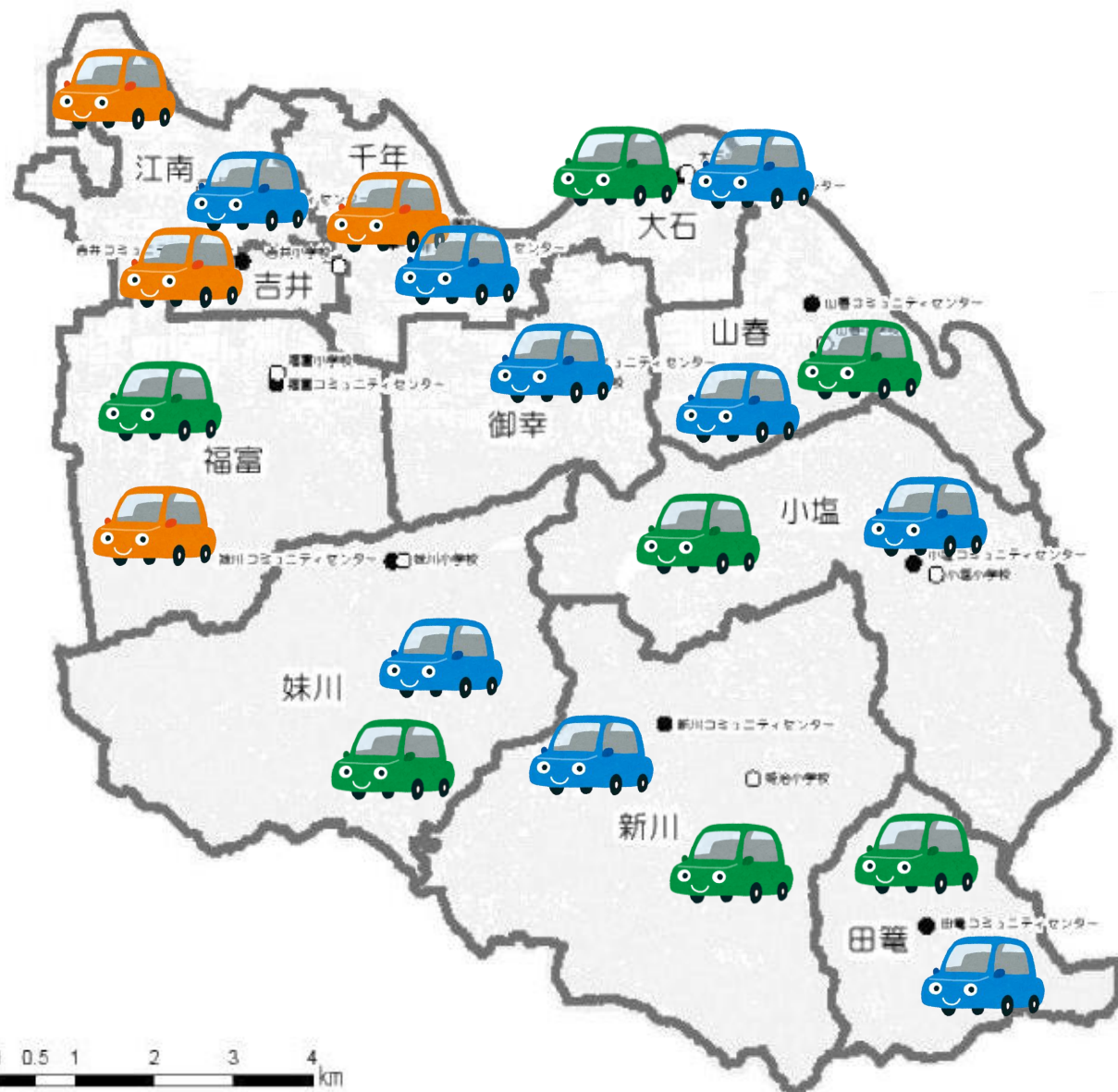
主な範囲：旧浮羽町域

※福富地区については
福富コミュニティセンターのみ



とくし丸

主な範囲：旧吉井町域



各移動販売車の曜日別状況

曜日	サンピットバリュー	セブンイレブン	とくし丸
月曜日	小塩・妹川地区	山春・大石地区	週2利用者宅
火曜日	新川・田籠地区 江南地区(一部)	お休み ※希望があれば稼働可能	週2利用者宅
水曜日	お休み	福富地区(一部)	週1利用者宅
木曜日	山春地区	新川・田籠・小塩地区 福富地区(一部)	週2利用者宅
金曜日	大石地区	妹川地区	週2利用者宅
土曜日	御幸・千年地区(一部)	お休み	お休み
日曜日	お休み	お休み	お休み

うきは市 第1層協議の場



第7回（R 2.11）：「買い物を支える移動販売について」

内容

・移動販売を実施する企業からの報告

移動販売時に利用者の体の不調に気づき、救急車を呼んだという事例
移動販売の停車場所が買い物後のおしゃべり等の居場所活動にもつながっている
買い物という行為自体が介護予防・認知症予防・見守り・食育にもつながっている
などのお話もありました。

・地域と企業が連携して移動販売がはじまった他自治体の事例について



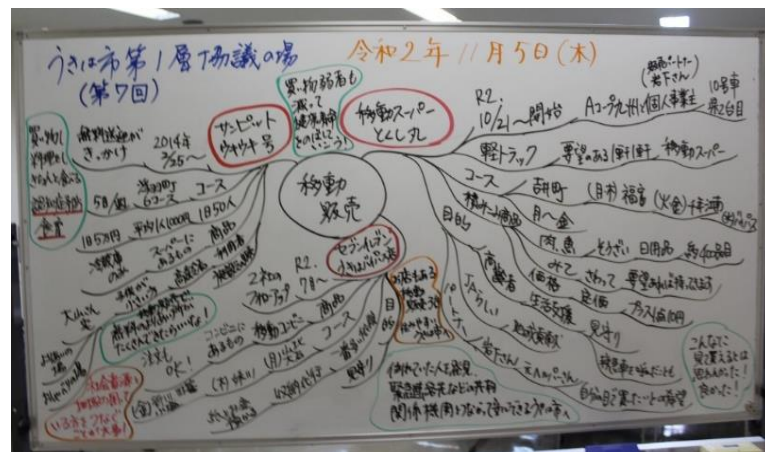
サンピットバリュー



セブンイレブン
うきはバイパス店



移動スーパー
とくし丸



※平成26年より移動販売を行っているサンピットバリュー（主に浮羽町域を範囲）、今年6月より開始したセブンイレブンうきはバイパス店（市内全域を範囲）、今年10月より開始したとくし丸（主に吉井町域を範囲）の3社。この3社の移動販売により、市内全ての地域にいずれかの移動販売が停車するという状況をつくることが可能となった。

うきは市 第1層協議の場



第7回（R 2.11）：「買い物を支える移動販売について」

グループワーク

①それぞれの地域で「買い物を手伝ってほしい」という声と移動販売をつなぐために、どのような方法で、状況把握ができるか

- ・行政区の福祉委員や民生委員に聞く。 ・福祉小座談会にて把握する。
- ・行政区ごとに移動販売の体験会をしてはどうか。
- ・個人と企業をつなぐのはむずかしいので、自治協議会を中心として地域とマッチングする仕組みが必要。
- ・個別の状態をアンケート等で把握する。 ・地域の方が「知る」という事から始める。
- ・マッピングやよりあい・げんき塾等での聞き取り。集まらない人は訪問して聞き取る。

②移動販売が皆さんの地域に来るとしたら地域でどんなお手伝い・協力ができそうか。

- ・よりあいやつどいの場の開催時に移動販売をマッチングしてそこに来てもらう。
→「買い物もできるよ」と声もかけやすい。
- ・食品ロスをなくすための協力。 ・移動販売車が停車する場所を紹介する。
- ・お試しで買ってみる。（地域の集まり（常会・よりあい・つどいの場等）
→お店に買い物に行ける人もお試しで利用してみる。
- ・同意を得て緊急連絡先等の地域の情報を企業の方へ提供する。
- ・通院等している人もいるので移動販売を利用している人が家にいる日を情報提供する。
- ・駐車場所にイスを置く。 ・企業との情報共有。
- ・移動販売を利用したい人は旗を立てておく。（地域で作成する）
- ・買い物以外にも困っている人がいる。外に出れないような人もいる。
⇨生活全般で支援が必要な人については、地域包括支援センターへ連絡してほしい。
- ・高齢者等へ毎月アンケートをしているので、移動販売の項目を入れる。
- ・地域の方の困ったという声から説明会を行って移動販売が来るようになった。まだ困っている方がいるので、地区ごとの情報提供を行う。
- ・お試し会をして内容を知ることが安心感につながる。 ・自治協議会のイスを活用する。
- ・企業の方ももっと積極的にアプローチしてほしい。

うきは市 第1層協議の場

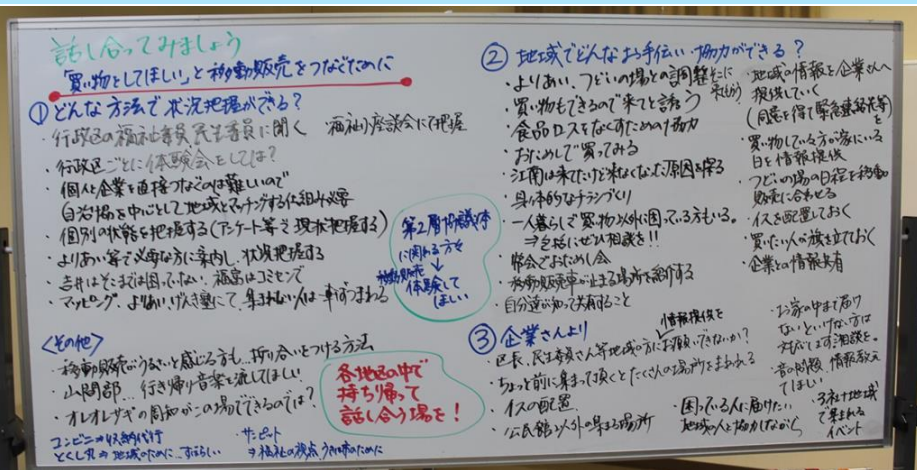


第7回 (R 2.11) : 「買い物を支える移動販売について」

グループワーク

③地域の中で移動販売を利用している方が、地域の方の協力があれば助かること、更なる展開（集客アップも含む）につながることを、そのために地域にお願いしたいこと（企業の皆様のご意見）

- ・ 区長、民生委員さん等地域の方に情報提供をお願いできないか。同居していても「自分で買いたい」と思っている人はいる。
- ・ 駐車場所にイスなどを置いていただくと集まりの場になる。
- ・ 公民館以外の駐車場所の情報提供
- ・ 地域の人と協力しながら買い物に困っている人に届けたい。
- ・ お家の中まで荷物を運ばないといけない方は対応するので、相談してほしい。
- ・ 販売時の音楽の問題については、情報等を教えてほしい。
- ・ 3社合同で何かイベントをやれたらと思う。
- ・ 市役所の商工観光の部署で民生委員さんへの研修を行っている。これまでは、詐欺や消費者問題等がテーマだったが、移動販売のことも伝えたい。
- ・ 地域の方とつながると伝わり方も違うので連携していきたい。



協議の場後には、ある地区で、地域の皆さんが行う買い物支援（送迎）と移動販売の曜日が重なっていたことが分かり、第2層の地域支え合い推進員と企業が調整を行い、曜日の変更を行いました。また、調整の際に、地区内にてまわっていない行政区があるということも分かったため、ルートの見直しも併せて行ないました。

第1層協議の場までの間のお話

移動販売をさらに広げるための動きに向けて・・・。



第1層協議の場に向け、各企業を訪問し内容を説明した際には、内容についてご理解いただき、快くお引き受けいただいたが・・・。



「買い物支援として市の担当課や社協から評価してもらってるのは分かるけど、市全体の考えとして移動販売をどう考えているの？」



「大雨や台風の際に移動販売に行けないときに防災無線で放送できないの？『今日は〇〇スーパーは臨時休業です。』ってテレビのテロップでも流せるでしょ？利用する人が困らないような支援を市のほうでお願いできないかな？」



「自分たちは他の移動販売のサポート役として移動販売を進めていきたい。そのためには定期的な情報共有の場が欲しい。」

「移動販売車の停車場所の許可を誰にとっていいか分からない。地域とつながりたい。」

「今の停車場所にベンチが置けたら居場所になるような場所がたくさんある。そういった情報を地域の方と共有したい。」

第1層協議の間までの間のお話

移動販売をさらに広げるための動きに向けて・・・。



たくさんの宿題をいただいたが、どうしよう・・・。

少しだけ重たい気持ちで事務所に戻りました。

「たくさん宿題もらったけど、一人じゃ答えができないな・・・。」

その日は寝つきが悪かったのを覚えています。



・・・翌日は市の担当者と商工関係部署との打ち合わせ・・・

※詳しくは書きませんが、移動販売以外の買い物支援や食の支援等について、一緒に仕組みづくりを行っています。

打ち合わせの際に宿題の内容を報告すると、商工関係部署の方より・・・。



「防災無線の活用はできると思うよ！市の公式LINEもあるからそこでもPRできるんじゃないかな？あとは広報紙に載せるのもいいよね！3社の情報共有の場も市でセッティングできるんじゃない？でも他社から「なんであそこだけ？」って言われる可能性はあるから、根拠は必要だと思う！例えば・・・協定とか！」

ええ～！！！！



第1層協議の場までの間のお話

移動販売をさらに広げるための動きに向けて・・・。



協議の場の打ち合わせの際にいただいた宿題をきっかけに、**うきは市と移動販売を行う企業3社が包括連携協定を締結しました。**協定の締結にあたっては3社にご説明を行い、協定をきっかけに、**3社の情報共有の場や、気になる利用者等の情報提供（見守り）および緊急時の連絡先の整備、ケアマネ等専門職への情報提供や連携などを進めていく予定としています。**

①1月の降雪の際、市内全域で積雪があったため、移動販売は実施が難しい状況になりましたが、防災無線を活用して、移動販売のお休みのお知らせができました。

②移動販売のドライバーさんの家族が体調不良のため、急遽移動販売が実施できなりました。その際も防災無線を活用し、お休みのお知らせを行うとともに、一部の地域については、市役所が別の移動販売事業者と調整を行いました。

③地域の自治協議会や第2層地域支え合い推進員が取材され、広報等に移動販売のことを紹介してくださいました。

今後も市の担当者等とバックアップを行うとともに、移動販売に限らず多様な社会資源と地域をつなげるように活動を行っていきたいと考えています。

